

平成30年 4月12日

松江市議会議長 森 脇 勇 人 様

会 派 名 友 愛 ク ラ ブ

経 理 責 任 者 名 新 井 昌 禎



平成29年度政務活動費収支報告について

松江市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり平成29年度政務活動費収支報告書を提出します。

平成29年度政務活動費収支報告書

会派名 友愛クラブ

1 収 入

政務活動費 330,000 円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
研 究 研 修 費	58,000 円	会派政務調査 (11/6-7・受講料)
調 査 費		
旅 費	304,720 円	会派政務調査 (7/9-11) 会派政務調査 (11/6-7)
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
広 聴 費		
合 計	362,720 円	

3 残 額 0 円

(注)備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

(様式 4-1)

平成 29 年度 政務活動費使用簿 (会派)

管理番号	1		
使途項目	旅費		
使途内容	松江市議会友愛クラブ 政務調査		
調査年月日 (購入年月日)	平成 29 年 7 月 9 日 (日) ~ 平成 29 年 7 月 11 日 (火)		
政務活動費 支出額及び充当額	【項目別支出内訳】	支出額	(うち政務活動費充当額)
	研究研修費	円	円
	.	円	円
	.	円	円
	.	円	円
	調査費	円	円
	.	円	円
	.	円	円
	.	円	円
	旅費	197,460 円	197,460 円
・旅費	46,980 円	46,980 円	
・バス借上代	1,900 円	1,900 円	
・有料道路 ・駐車場			
□資料作成費	円	円	
.	円	円	
□資料購入費	円	円	
.	円	円	
□広報費	円	円	
.	円	円	
□広聴費	円	円	
.			
合計額	246,340 円	246,340 円	
備考			

(注意)  
研究研修費、調査費、旅費、広報費(広報活動)、広聴費  
(意見聴取会)等に係る経費の場合、備考欄に参加議員名を  
記入すること

会派名 【 友愛クラブ 】

領収書貼付用紙

使 途	松江市議会 友愛クラブ政務調査 (一般交通機関・貸切バス利用料)
【貼付欄】	

冊番 № 9273-18      領 収 書

松江市議会 友愛クラブ 様    平成29年8月17日

金 額	百万	千	円	残高
	9	192	020	200円

但し 7/9 島根県友愛会  
島根県民社協会 視察研修

入金内訳: 現金 (小切手・クレジット)  
手形 年 月 日期日

上記金額領収致しました

日帰りから帰るバス  
Travel 一畑バス 扱者印

お手数乍ら御支払の上は支払証印欄へ御調印願います。  
社印取扱者印なきもの及び金額訂正したものは無効です。

28.3 (3×60) 720

(注意)

- この用紙1枚につき、領収書1枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること。)
- 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してよい。

会派名 【友愛クラブ】

発行年月日  
 2017年7月21日  
 松江市議会友愛クラブ様

**明 細 書**

〒690-0852  
 島根県松江市千鳥町24 一畑しんじ湖温泉ビル2F  
 PHONE: (0852) 26-8181 FAX: (0852) 26-5208  
 (株)一畑トラベルサービス 本社 営業部  
 担当: XXXXXXXXXX

合計金額	192,020 円
件 名	7月9日 島根県友愛会・島根民社協会視察研修



明 細 書

科 目	摘 要	人 数	単 価	金 額
航 空 券	出雲⇒伊丹⇒花巻 (JAC2342, JAL2183)	2	30,280	60,560
航 空 券	三沢⇒伊丹⇒出雲 (JAL2164, JAL2357)	2	30,080	60,160
J R	仙台⇒新青森⇒青森 (はやぶさ23)	2	11,210	22,420
貸切バス	7/9-10 マイクロバス (人数案分)	2	15,120	30,240
貸切バス	7/11 小型バス (人数案分)	2	8,370	16,740
有料道路・駐車場	(人数案分)	2	950	1,900
<備考>			小計	192,020
			お預り金額	0
			合計	192,020

(様式5)

# 旅費計算書

会派名

友愛クラブ

用務先	宮城県宮城郡松島町、牡鹿郡女川町、青森県北上郡六ヶ所村										
用務内容	①東日本大震災被災地の復興状況について ②原子力発電所（BWR）の安全対策工事の状況について ③原子燃料サイクル施設の安全対策工事の状況について										
出張期間 (出発及び帰市)	平成29年 7月 9日(日) ~ 平成29年 7月11日(火) (2泊3日)										
年月日	曜日	出発地	用務地	鉄道(航空・船・車)賃			日当・日額旅費		宿泊料・食卓料		備考
		到着地	宿泊地	路程	運賃等	特別料金	日数	定額	日数	定額	
H29.7.9	日	松江市 仙台市	松島町 仙台市	連絡バス 飛行機	1,030 30,280		0.5	1,100	1	10,900	団体割引
H29.7.10	月	仙台市 青森市	女川町 青森市	新幹線	6,260	4,950	0.5	1,100	1	10,900	
H29.7.11	火	青森市 松江市	六ヶ所村	飛行機 連絡バス	30,080 1,030		0.5	1,100			団体割引
小計					68,680	4,950	1.5	3,300	2	21,800	
一人当たり合計				参加人数			会派合計				
98,730 円				2 人			197,460 円				

※異なる路程で参加した者があった場合は、別に旅費計算書を作成すること。

- 備考
1. 特別料金は特急料金、急行料金、グリーン料金
  2. 用務は主たる用務を具体的に、又用務地は順路により、それぞれ記載する。
  3. 変更は朱書すること。

## ※ 路程欄

7月9日(日)  
JR松江駅⇒出雲空港⇒伊丹空港⇒花巻空港⇒[貸切バス]⇒用務地(松島町)⇒[貸切バス]⇒宿泊地(仙台市)  
7月10日(月)  
宿泊地(仙台市)⇒[貸切バス]⇒用務先(女川町)⇒[貸切バス]⇒仙台駅⇒新青森⇒青森⇒宿泊地(青森市)  
7月11日(火)  
宿泊地(青森市)⇒[貸切バス]⇒用務先(六ヶ所村)⇒[貸切バス]⇒三沢空港⇒伊丹空港⇒出雲空港⇒JR松江駅

※貸切バス料金および有料道路・駐車場料金については、参加者で人数按分  
 [貸切バス料] 23,490円(1人分)、[有料道路・駐車料金] 950円(1名分)

## 研究研修、調査 報告書

会派名 友愛クラブ

1. 期 間 平成29年 7月 9日(日) ～ 平成29年 7月11日(火)
2. 会 場 等 ①松島町・女川町(震災被災地)  
②東北電力(株)女川原子力発電所  
③日本原子燃料サイクル施設
3. 調査項目等 ①東日本大震災からの復興状況について  
②原子力発電所(BWR)の安全対策工事の状況について  
③原子燃料サイクル施設の安全対策工事の状況について
4. 講師(対応者) ①松島および女川駅周辺施設(青龍山 瑞巖寺・五大堂、JR女川駅)  
②東北電力(株)女川原子力発電所  
③日本原燃(株)原子燃料サイクル施設
5. 会派参加者名 宅野 賢治、新井 昌禎
6. 調査内容・所感等



今回の視察は、島根県友愛会の役員の方々と一緒に視察研修を行いました。

初日は、東日本大震災の被災地・松島周辺の施設の震災被害からの復興状況について視察しました。

松島は、260余りの島々に守られ奇跡的に被害が少なかった場所ですが、震度6弱の地震と最大3.8m

の津波に襲われています。震災当日、海岸部には約1,200人の観光客が訪れていたが待機していた

スタッフ等が、瑞巖寺の裏山等に避難誘導し、津波が到着する前に避難が完了していました。その後、

町内のホテルや瑞巖寺で避難者を収容し、観光客の一人もけが人を出すことなく、4日目までに全員帰

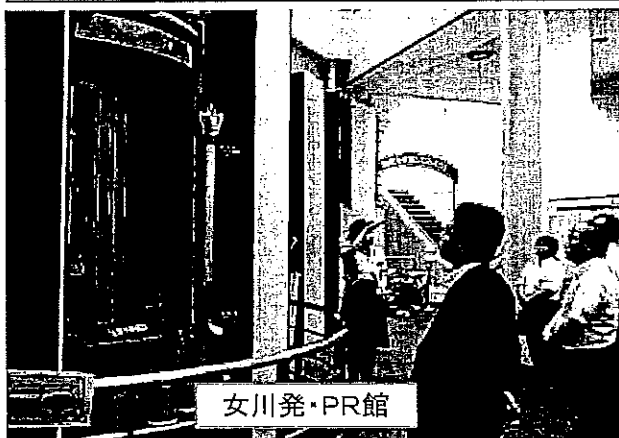
路につくことが出来たそうです。一方、2日目に視察した女川町は、海岸部の地形などの影響により、

高さ20mを超える津波に襲われ、町の中心部が壊滅的な被害に遭い、全家屋の7割が全壊しました。

JR女川駅も、駅舎が全壊し、電車やレールも流されました。駅は、元の場所より、約150m内陸側

に移設され、町内中心部についても嵩上げ工事を実施し、2015年春の女川駅のオープンに合わせた  
周辺商店街の整備が行われました。現在も、町内の各地で復興計画に基づく工事が実施されています。

次に、「東北電力(株)女川原子力発電所(BWR)」を視察しました。女川原子力発電所は、2011  
年3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震の震源地から最も近くにあった原子力発電所です  
が、地震発生に伴い、全号機(3機)とも設計どおり原子炉が自動停止し、高さ13mを記録した津波



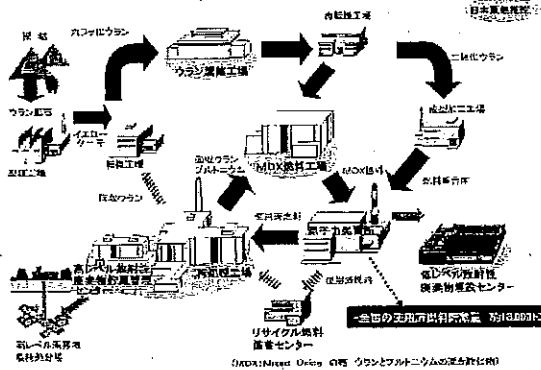
に対しても大きな被害を受けることはありませんで  
した。加えて、地域住民の方々の非難を受け入れま  
した。設計時の津波の評価に対する対応と震災以前  
に実施した耐震工事により、電源を確保することが  
出来、福島第一原子力発電所(BWR)の様な深刻  
な事態にはなりません。現在は、新規制基準

の適合に向け更なる安全対策工事を実施しており、原子力規制委員会による適合性審査を受けています。

青森県六ヶ所村で進められている「原子燃料サイクル事業」は、国内の原子力発電所で発生した使用済  
み燃料を再処理する事業など6つの事業が計画されています。この中でも、使用済み燃料の再処理工場の  
竣工は、国内の原子力発電所の運転および廃止措置に係る大変重要なもので、2018年上期が予定され  
ています。再処理工場は、1993年に建設を開始し、様々な試験を行ってきました。これまでに技術的

トラブルなどにより竣工が23回延期されてしまし  
たが、現在は、そのトラブルを全て克服し、再処理  
技術が確立しています。各施設の建設場所は、海岸  
線から約5kmの内陸部にあり、標高約55mに位置  
していることから津波被害の想定はされていません  
が、地震や竜巻等の自然災害を相対し、新規制基準

### 1. 原子燃料サイクル図 (原子力発電を支えます)



の適合に向け更なる安全対策工事を実施しており、原子力規制委員会による適合性審査を受けています。



(様式4-1)

平成29年度 政務活動費使用簿 (会派)

管理番号	2		
使途項目	旅費		
使途内容	松江市議会友愛クラブ 政務調査		
調査年月日 (購入年月日)	平成29年11月6日(月) ~ 平成29年11月7日(火)		
政務活動費 支出額及び充当額	【項目別支出内訳】	支出額	(うち政務活動費充当額)
	研究研修費	58,000 円	58,000 円
	・	円	円
	・	円	円
	・	円	円
	調査費	円	円
	・	円	円
	・	円	円
	・	円	円
	旅費	58,380 円	58,380 円
・	円	円	
・	円	円	
□資料作成費	円	円	
・	円	円	
□資料購入費	円	円	
・	円	円	
□広報費	円	円	
・	円	円	
□広聴費	円	円	
・	円	円	
合計額	116,380 円	116,380 円	
備考			

(注意)

研究研修費、調査費、旅費、広報費(広報活動)、広聴費(意見聴取会)等に係る経費の場合、備考欄に参加議員名を記入すること

会派名 【 友愛クラブ 】

領収書貼付用紙

使 途	松江市議会 友愛クラブ政務調査 (受講料)
-----	-----------------------

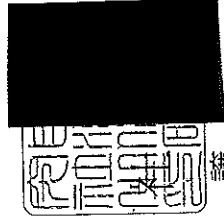
【貼付欄】

領 収 証

松江市議会 友愛クラブ 様

¥29,000—

但、第42回市町村議会議員研修会 in 大阪(2017年11月6日・7日)受講料として 上記正に領収いたしました。  
(受講者様ご氏名：宅野 賢治 様)



2017年10月16日

株式会社自治体研究

代表取締役 福島

〒162-8512

東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4階

電話番号 03-3235-5941

- (注意)
1. この用紙を貼る場合は、
  2. 領収書サイのとおり」と

領収書貼付用紙

使 途	松江市議会 友愛クラブ政務調査 (受講料)
-----	-----------------------

【貼付欄】

領 収 証

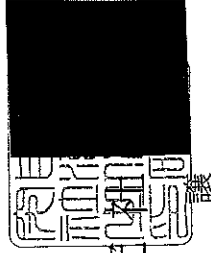
松江市議会 友愛クラブ 様

¥ 29,000 —

但、第42回市町村議会議員研修会 in 大阪(2017年11月6日・7日)受講料として 上記正に領収いたしました。

(受講者様ご氏名：新井 昌禎 様)

2017年10月16日



株式会社自治体研究

代表取締役 福島

〒162-8512

東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4階

電話番号 03-3235-5941

(注意)

1. この用紙1枚貼る場合は、
2. 領収書サインのとおり」と

領収書貼付用紙

使 途 松江市議会 友愛クラブ政務調査 (旅費)

【貼付欄】

冊番 № 9540-13

領 収 書

松江市議会友愛クラブ様 平成29年10月27日

収 入

印 紙

金 額		百万		千		円	残高
			¥	2	7	7	80

但し76-7 松江-岡山-新大阪  
阪神往復 2名様

入金内訳

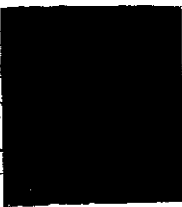
現金・小切手・クレジット

手形 年 月 日期日

上記金額領収致しました



日帰りから



バス

扱者印



お手数乍ら御支払の上は支払証印欄へ御調印願います。  
社印取扱者印なきもの及び金額訂正したものは無効です。

28.3 (3×50) 720

(注意)

- この用紙1枚につき、領収書1枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること。)
- 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してよい。

会派名 【友愛クラブ】

(様式5)

# 旅費計算書

会派名

友愛クラブ

用務先	ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター (大阪府大阪市淀川区西中島6-2-19)										
用務内容	①「我が事・丸ごと」地域共生社会による社会保障の変容に、地方自治体・地域住民はどう関わるのか ②子育て支援策の現状と課題 ③-A 高齢者福祉における自治体の役割 -B 「新しい国保のしくみと財政」を考える										
出張期間 (出発及び帰市)	平成29年11月 6日(月) ~ 平成29年11月 7日(火) (1泊2日)										
年月日	曜日	出発地	用務地	鉄道(航空・船・車)賃			日当・日額旅費		宿泊料・食卓料		備考
		到着地	宿泊地	路程	運賃等	特別料金	日数	定額	日数	定額	
H29.11.6	月	松江市 大阪市	大阪市 大阪市	JR 新幹線	13,890		1	2,200	1	10,900	往復割引
H29.11.7	火	大阪市 松江市	大阪市	新幹線 JR	往路を含む		1	2,200			
小計					13,890		2	4,400	1	10,900	
一人当たり合計				参加人数				会派合計			
29,190		円		2		人		58,380		円	

※異なる路程で参加した者があった場合は、別に旅費計算書を作成すること。

- 備考
1. 特別料金は特急料金、急行料金、グリーン料金
  2. 用務は主たる用務を具体的に、又用務地は順路により、それぞれ記載する。
  3. 変更は朱書すること。

## ※ 路程欄

11月6日(月)  
JR松江駅⇒JR岡山駅⇒[新幹線]⇒JR新大阪駅⇒用務地・宿泊地(大阪市)  
11月7日(火)  
宿泊地・用務地(大阪市)⇒JR新大阪駅⇒[新幹線]⇒JR岡山駅⇒JR松江駅

## 研究研修、調査 報告書

会派名 友愛クラブ

1. 期 間 平成29年11月 6日(月) ～ 平成29年11月 7日(火)

2. 会 場 等 ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター  
(大阪府大阪市淀川区西中島6-2-19)

3. 調査項目等  
①記念講演：「我が事・丸ごと」地域共生社会による社会保障の変容に、地方自治体・地域住民はどう関わるのか  
②講義：子育て支援策の現状と課題  
③選科A：高齢者福祉における自治体の役割（受講者：宅野）  
選科B：「新しい国保のしくみと財政」を考える（受講者：新井）

4. 講師（対応者）  
①講師：芝田秀昭氏（立教大学コミュニティ福祉学部 教授）  
②講師：藤井伸生氏（京都華頂大学現代家政部 教授）  
③選科A 講師：服部万里子氏（服部メディカル研究所 所長）  
選科B 講師：長友薫輝氏（津市立三重短期大学生活科学科 教授）、  
寺尾正之氏（全国保険医団体連合会政策部）

5. 会派参加者名 宅野 賢治、新井 昌禎

6. 調査内容・所感等



今回の視察は、「社会保障のいま」について、各専門の講師から具体的に学びました。

1日目は、記念講演として立教大学コミュニティ福祉学部教授・芝田英昭氏から「我が事・丸ごと」地域共生社会による社会保障の変容に、地方自治体・地域住民はどう関わるのかについて講義ありまし

た。厚生労働省の地域共生社会実現本部が示した「当面の改革工程」（2017年2月7日発表）に沿って、2017年5月26日に介護保険法等改正法案が可決・成立したが、その内容は、介護保険法の改正だけでなく、健康保険法、児童福祉法、地域再生法、子ども・子育て支援法等を含む31法の改正であり、多岐に渡る内容であった。「地域共生社会」の名の下に、地域に生起するあらゆる課題・問題

を地域住民が自助・共助を基本に解決していくとしているが、社会保障を崩壊させかねない危険性を含んでいることから、これらの問題点を探るとともに、地方自治体の役割や地域住民の共同の運動・実践について研修しました。

次に、京都華頂大学現代家政学部教授・藤井伸生氏から、「子育て支援策の現状と課題」について講義がありました。社会問題となっている子どもの貧困・虐待、少子化に対する自治体の役割について、



フィンランドのネウボラなど北欧諸国や国内の先進事例を紹介し、子どもの命を守り、育てていくために果さなければならない役割について研修しました。

2日目は、選科A・Bに分かれ受講しました。

(選科A) 「高齢者福祉における自治体の役割」

をテーマに、服部メディカル研究所所長・服部万里

子氏から講義がありました。①平成30年医療保険・介護保険制度の改正 ②地域包括ケアの現状 ③新総合計画の現状 ④認知症に対する国の政策転換などを主な項目として、自治体の役割と課題について研修しました。松江市においても第7期計画を策定しているが、特に、介護人材の確保策が最も重要であることを改めて痛感しました。(受講者：宅野賢治)

(選科B) 「新しい国保のしくみと財政」を考えるをテーマに、津市立三重短期大学生生活科学科教授・長尾薫輝氏と全国保険医団体連合会政策部・寺尾正之氏から講義がありました。平成30年度から国保の

運営に都道府県が加わるようになっており、それに伴い、保険料の算定方法や財政運営の仕組みも変わる。今後、保険者である自治体は「医療費適正化」の取り組み強化が求められる。松江市においても、住民の健康づくり活動や医療提供体制などをどう



つくっていくのか、地域づくりの一環として位置づけ取り組む必要があると感じた。(受講者：新井昌禎)